

## 「つくば de 子育てすくすくメール」 産前産後ケア事業実現しました！



産前産後ケアの「孤育て」予防の取り組みとして、メール配信事業を昨年9月議会で提案いたしました。田村けい子県議会議員と共に取り組んでおりますが、今年度、国の「地域少子化対策強化事業交付金」を活用し、茨城県がモデル事業として導入！県内11市町村の選定につくば市も通り、「つくば de 子育てすくすくメール」として7月1日よりスタートいたしました。

妊婦の方や乳幼児の保護者が、安心して出産や子育てができるように、おなかの赤ちゃんの様子や産後のお子さんの成長・発達、子育てサービス等タイムリーな情報をメールマガジン形式で毎日、携帯等に配信されます。内容は、産婦人科医、助産師、小児科医、歯科医、管理栄養士という大勢の専門家の協力を得て、原稿が作られているので、安心です。

山本みわはこれからも、産前産後ケアの体制づくりを進めてまいります。

※「孤育て」とは夫や親族の協力を得られず、近所との付き合いもなく、孤立した中で、母親が子育てしている状態



©KOMIITO

つくばde子育てすくすくメール(妊娠期)  
妊娠9週と6日  
出産予定日まで211日

<赤ちゃんの様子>  
いま、お腹の赤ちゃんは目を閉じています。まぶたは6週くらいからつくられ、8週頃にまぶたを閉じるようになります。次に赤ちゃんがまぶたを開けるのは、26週くらい。その頃には、光を感じることができるようになっているでしょう。

<今日のママへ>  
妊娠中はかた冷やさないように。夏の場合、婦さんの大敵悪くなってむり、疲れやすくなります。妊婦さんは暑がりですが、足元やお腹まわりは冷やさないようにしましょう。生足、ハジ出し...はやめておきましょう。

※おなかの赤ちゃんとママの状態はあくまで一般的な経過であり、個人差があります。

## 山本みわ “市議会便り”



9月議会は、9月2日開会、一般質問は9・10・11日の3日間です。

今回の山本みわの一般質問は、

- 1) 地方創生におけるつくば市のワークライフバランスの推進、
- 2) 健康増進事業(予防啓発・医療費削減)、
- 3) 公務員宿舎跡地問題、
- 4) 地域公共交通施策(つくバス・つくタク)の見直し、
- 5) 防災月間(シェイクアウト訓練の成果)等について質問する予定です。

ぜひ、皆様のご意見をお聞かせください。



## 「G7 科学技術大臣会合」来年つくば開催！

【開催日】2016(平成 28)年 5 月 15 日(日)~17 日(火)

7 月 3 日、政府において「2016 年の伊勢志摩サミットに併せて開催される G7 科学技術大臣会合を、茨城県つくば市で開催する」と決定されました。公明党の山口那津男代表は茨城県出身。また、石井啓一政調会長は研究学園在住。茨城県議団、つくば市議団共に、会合招致に尽力いたしました。

今後、科学技術大臣会合の成功に向け、しっかりと準備を進めてまいります。

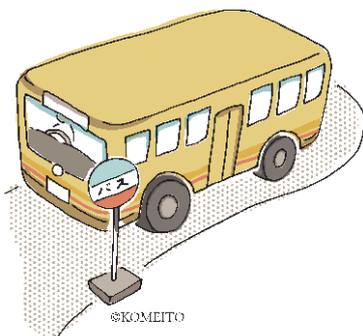


7 月 3 日(金)国会にて

## 「つくば市地域公共交通網」の見直しが始まります

つくバス・つくタクなどのつくば市地域公共交通網の運行方針・路線、サービス内容の見直しを行うことになりました。9 月には市民や利用者の満足度意向調査が行われます。(無作為抽出郵送アンケート、利用者 Web アンケート)

つくバスの 26 年度年間利用者数は約 89 万人。運行経費は約 4 億。うち市負担は 2 億 2 千万になります。また、「つくばモビリティ・交通研究会」(つくば市、筑波大、国総研)のデータ分析によると、バス利用可能な圏域の居住者は 56%、高齢者に着目すると 46%となっています。市民の大切な交通手段として、利便性が高まるよう、山本みわはしっかり取り組んでまいります。



## 「つくば市総合運動公園基本計画」住民投票で反対多数により白紙撤回に

8 月 2 日に行われたつくば市総合運動公園基本計画の住民投票は投票率 47.3%、反対 63,482 票(80.8%)、賛成 15,101 票(19.2%)と、計画に反対する票が 8 割を超えました。市原市長は それを受け、計画の白紙撤回を表明しました。ちなみに昨年末の県議会議員選挙で投票率 56.85%、前回の市長選で 54.54%です。このあと、どういう方向に持っていくのか、議会で議論されるところです。山本みわは「施設ありき」ではない、健康増進・まちづくりを重視した「スポーツ推進計画」の着実な実現を目指し、必要な施設整備を行うべきだと考えます。



6月議会

## 山本みわ 議会質問より



質問

## 公立保育所における保育士確保と待遇改善について

待機児童解消のため保育の量的拡大は最も急がれることだが、一方で保育の質の充実も重要。少子化対策の面からも保育士の需要は一層高まることが予想される。臨時職員保育士の雇用確保のための待遇改善と制度再検討を強く求める。また、潜在保育士の就労サポート(県子育て支援人材サポート)を活用し、市独自の工夫をすべきである。

答弁

確かに他市町村に比べ時給的に低い部分もあり、今までも雇用条件・賃金水準の見直しをしてきたが、今後さらに、雇用条件向上に向け検討してまいりたい。

質問

## ふるさと納税導入について

国が地方創生の一手として、さらに力を入れている『ふるさと納税』。地域のあり方を改めて考えるきっかけへとつながり、また制度の拡大を受け、ふるさと納税利用を新たに考える人はさらに増えると思われる。物産品だけでなく、観光やシティーセールスにもつながるチャンスと考えるが、導入に向けての再検討をお願いしたい。

答弁

つくば市では、皆さまからの善意の寄附を、市の事業や地域貢献に取り組むまちづくり活動団体の支援に活用するアイラブつくばまちづくりキャンペーンがその役割を果たしてきた。納税に関する特産品の返礼の過熱化などもあるが、他自治体の動向をさらに注視し、アイラブつくば寄附の意義もとどめ、物産のPR効果も考慮し改めて検討してまいりたい。

質問

## 防災備蓄について

大都市や広域の大規模災害が発生した場合はライフラインの復旧に長期間を要し、前提が崩れる懸念がある。また、道路の損壊や渋滞などで被災地外からの救援食料がいき届かず食料不足になる恐れがある。ローリングストックの考え、災害弱者のための備蓄、災害応急活動従事者を支える食料の確保、さらに首都直下型地震を想定した物流・支援等のシュミレーションと対策について確認したい。

答弁

平成26年度に整備した市内小中学校の防災倉庫と旧上郷高校体育館に1万2千人分備蓄、平成30年度までの5年計画で2万人分の食料を備蓄していく。さらに毛布3000枚、簡易トイレ3000セット、発電機70台を用意している。災害弱者については、本部用備蓄でおかゆ、オムツ、生理用品など用意している。各家庭での備蓄を推進するよう啓蒙してまいりたい。つくば市は災害時においても県南の中心的役割を求められている。広域岩手県みちのくアラート2008などの物流支援シュミレーションの例を参考にし、今後検討課題としてまいりたい。

## 山本みわの実績

## 子育て

- ◆子育て総合支援センターに発達相談窓口の設置
- ◆放課後子ども教室の推進・実施
- ◆保育所・児童館など学校以外の児童施設における耐震診断と耐震改修を実現
- ◆子育てすくすくメール配信事業実施
- ◆小中学校各教室への冷房整備

## 地域

- ◆市報のポスティングによる全戸配付
- ◆犬のふんイエローカード
- ◆交流センター図書室の中央図書館分館化
- ◆中心市街地の防犯灯等の計画的な整備管理について、調査マップを作成

## 防災

- ◆地域との連携による学校の防災力強化推進事業の実施
- ◆災害時の情報伝達手段の整備(ラヂオ協定)
- ◆防災無線の一部導入

## 市政

- ◆財政の見える化(つくばの台所事情発行)
- ◆公共施設マネジメント導入

## 健康

- ◆女性特有のがん検診・がん対策の推進
- ◆高齢者肺炎球菌ワクチンの公費助成を実現
- ◆妊婦健診公費助成拡充
- ◆子どもの医療費助成、中学3年まで拡充

実現  
しました

## 山本みわプロフィール

- 1969年12月 東京都練馬区生まれ 創価大学教育学部児童教育学科卒業  
 1992年 4月 学校法人創価大学事務局にて庶務課・広報課・企画課に従事  
 1999年 4月 結婚を機につくば市へ居住  
 2008年10月 つくば市議選で 2,602票をいただき初当選  
 2012年10月 3,577票で再選を果たし、現在2期目。

公明党つくば支部副支部長

文教福祉常任委員会 委員長(2013、2014年)

安心安全調査特別委員会、議会活性化推進特別委員会所属

国民健康保険運営協議会副会長、男女共同参画審議会委員

子ども子育て会議委員、パースセンター評価委員、予防接種健康被害調査委員会委員

松代小学校父母と教師の会元会長、手代木中学校 PTA 現会長

防災士、つくば環境マイスター受講生、よみきかせボランティア活動

「いばらき防災士ネットワーク」「認知症の人と家族の会」

「若年者社会参加支援普及協会アストリンク」(ひきこもり支援)



【生活信条】「笑顔と感謝」

【趣味】森林浴・文具本屋めぐり

【家族】夫・一男(中2)・一女(小5)・実母の5人家族